

さようならSL50年記念
「復刻」駅スタンプ

第1弾

スタンプラリー



1975年の蒸気機関車(SL)定期運行終了から半世紀
終焉まで走り続けた炭鉄港エリアを復刻スタンプで巡る!



50年後のDISCOVER

2025年は、日本で蒸気機関車による定期運行が終了してからちょうど50年の節目の年です。1975(昭和50)年12月14日には室蘭発岩見沢行き旅客列車が、同月24日には夕張発追分行き貨物列車が、蒸気機関車による最後の営業運転を行い、その歴史に幕を下ろしました。

これを記念し、日本の産業近代化に大きく貢献した蒸気機関車と鉄道の歴史を振り返る取り組みとして、当時使われていた駅スタンプを復刻しました。

かつて最後まで蒸気機関車が活躍した「炭鉄港」エリアを、復刻スタンプを集めながら巡ってみませんか? 新しい発見があるかもしれません。

※当時スタンプ設置の無かった市町にはオリジナルデザインのスタンプが設置されています。

「復刻」駅スタンプ設置場所

※の付いた施設はオリジナルスタンプを設置。

第1弾

2025年9月1日(月)～

小樽市	小樽市総合博物館ミュージアム ショップ ポップー	歌志内市	歌志内市郷土館ゆめつむぎ
室蘭市	室蘭観光協会(旧室蘭駅舎)	上砂川町	上砂川岳温泉パンケの湯 ※
夕張市	夕張市石炭博物館	月形町	月形樺戸博物館 ※
三笠市	三笠鉄道記念館	沼田町	ほろしん温泉ほたる館 ※

第2弾

2025年12月1日(月)～

岩見沢市	そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター	江別市	江別市セラミックアートセンター
美唄市	美唄市郷土史料館	栗山町	小林酒造・北の錦記念館
芦別市	星の降る里百年記念館	安平町	道の駅あびら D51 ステーション
赤平市	赤平市炭鉱遺産ガイド施設 ※		

★復刻駅スタンプは、スタンプラリー終了後も常設する予定です★



第1弾

2025年9月1日(月)～11月3日(月・祝)
小樽市 室蘭市 夕張市 三笠市 歌志内市 上砂川町
月形町 沼田町

第2弾

2025年12月1日(月)～2026年3月15日(日)
岩見沢市 美唄市 芦別市 赤平市 江別市 栗山町 安平町

詳細は炭鉄港ポータルサイトをご覧ください。

※第1弾・第2弾コンプリート達成景品は共通です

さようならSL50年記念
特設サイト
<https://3city.net/sl50/>

炭鉄港推進協議会
(事務局)北海道空知総合振興局 地域創生部 地域政策課内
〒068-8558 岩見沢市8条西5丁目 TEL:0126-20-0034

昭和30~40年代頃の 主要鉄道路線略図

明治末期から石狩炭田を中心とした産炭地からの石炭輸送のための鉄道路線が敷かれ、周辺人口も1960(昭和35)年頃にピークを迎えました。

その後エネルギー革命により、燃料の主役が石炭から石油へ移行し、炭鉱の廃止が相次ぎました。

鉄道による石炭輸送も使命を終えると共に、産炭地からの路線も次第に消えていきました。

国鉄路線 
私鉄路線 
主な炭鉱 



北海道の鉄道のはじまり

北海道最初の鉄道

北海道の鉄道は、石狩炭田の幌内炭鉱から石炭を運び、小樽港から船で積み出すために鉄道を敷設したのが、北海道の鉄道のはじまりでした。

には夕張線や室蘭線が開通し、小樽港だけでなく室蘭港からも石炭が輸送されるようになりました。

蒸気機関車の終焉

く蒸気機関車が走る風景は、北海道の産業発展を象徴するものでした。

特に夕張産の石炭は多くが室蘭に運ばれ、本州への移出はもとより、製鋼製鉄の原料や燃料として鉄のまち室蘭の発展を支えました。石炭輸送を担った鉄道は、「日本の産業近代化」に大きな貢献を果たしたのです。

追分や岩見沢には機関区が設けられ、多くの蒸気機関車が配置され、石炭輸送の要衝となり、国鉄公認の「鉄道町」として発展しました。室蘭本線では最大で63両編成の石炭列車が走り、白い煙を吐きながら、沢山の石炭貨車を牽

石炭輸送と貨物、人々を運んだ蒸気機関車は長らく鉄道の主役でしたが、安価な輸入炭の増加や、石炭から石油への時代の変遷と共に次第に「ディーゼルや電気機関へとシフトする、いわゆる無煙化が全国で進みました。

石炭輸送の隆盛

その後も空知地域を中心に石炭産業が発展し、鉄道網も広がり、1891(明治24)年には北炭鉄道

空知線(岩見沢)歌志内(1892(明治25)年

から蒸気機関車による定期運行は終了しました。

1975(昭和50)年12月14日、室蘭発岩見沢行の旅客列車、同日24日、夕張追分行の貨物列車が国内最後の蒸気機関車による営業運転となり、国内から蒸気機関車による定期運行は終了しました。

官宮幌内鉄道

1880(明治13)年→1889(明治22)年北海道炭礦鉄道に譲渡→1906(明治39)年国有化

幌内線

1909(明治42)年→1987(昭和62)年廃線

上砂川支線

1918(大正7)年→1994(平成6)年廃線

夕張線

1892(明治25)年→1981(昭和56)年石勝線開業に伴い夕張支線となる→2019(平成31)年夕張支線廃線

三井芦別鉄道

1940(昭和15)年→1989年(平成元)年廃線

三菱石炭炭業大夕張鉄道線

1911(明治44)年→1987(昭和62)年廃線

北海道炭礦汽船真谷地炭鉱専用鉄道

1913(大正2)年→1987(昭和62)年廃線

歌志内線

1891(明治24)年→1988(昭和63)年廃線

万字線

1914(大正3)年→1985(昭和60)年廃線

三菱炭業美唄鉄道線

1914(大正3)年→1972(昭和47)年廃線

夕張鉄道線

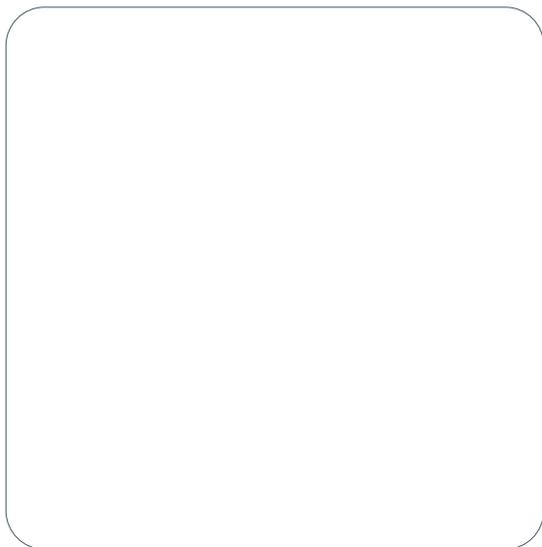
1926(大正15)年→1975(昭和50)年廃線

留萌鉄道炭礦線

1930(昭和5)年→1971(昭和46)年廃線

炭鉄港工リア 産炭地からの主要鉄道路線

小樽市 スタンプ設置場所 小樽市総合博物館ミュージアムショップ ポツポー



住 小樽市手宮1丁目3-6
営 9:30~17:00
休 火曜日(祝日の場合翌日休)・
年末年始(12/29~1/3)
☎ 0134-61-7777



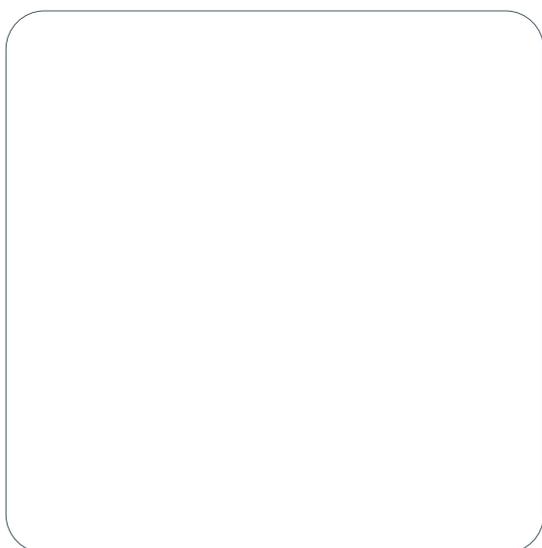
室蘭市 スタンプ設置場所 旧室蘭駅舎内 室蘭観光協会



住 室蘭市海岸町1丁目5-1
営 8:00~19:00(4月~10月)
8:00~17:00(11月~3月)
休 1月1日
☎ 0143-23-0102
(室蘭観光協会)



夕張市 スタンプ設置場所 夕張市石炭博物館



住 夕張市高松7番地
営 4~9月 10:00~17:00
10月~ 10:00~16:00
休 火曜日
冬期(11月上旬~4月下旬)
☎ 0123-52-5500



月形町 スタンプ設置場所 月形樺戸博物館

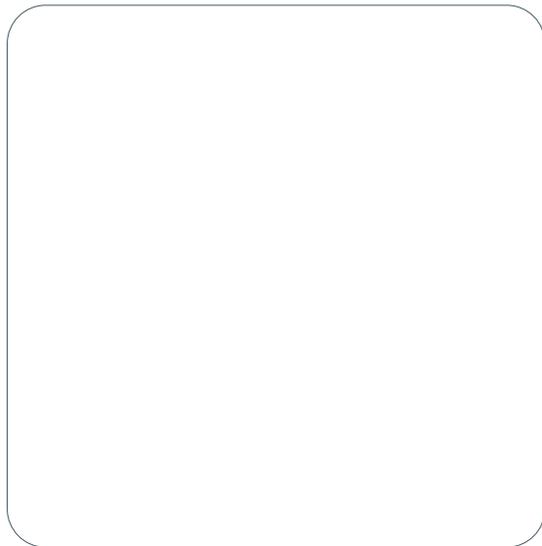


住 月形町1219番地
営 9:30~17:00
(入館受付は16時30分まで)
休 12月1日~3月19日
☎ 0126-53-2399



沼田町 スタンプ
設置場所

ほろしん温泉ほたる館

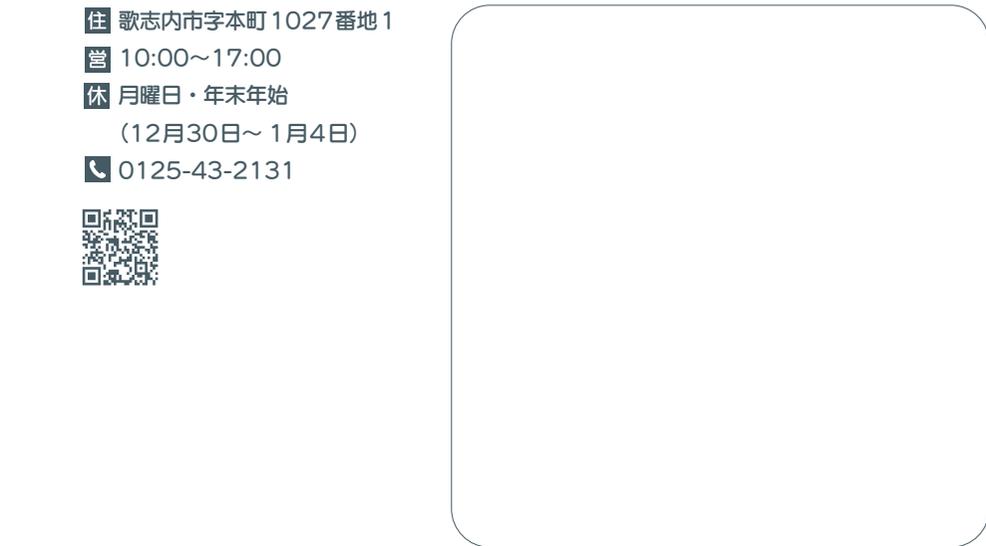


住 沼田町字幌新377番地
営 10:00～22:00
休 なし
☎ 0164-35-1188



歌志内市 スタンプ
設置場所

歌志内市郷土館ゆめつむぎ

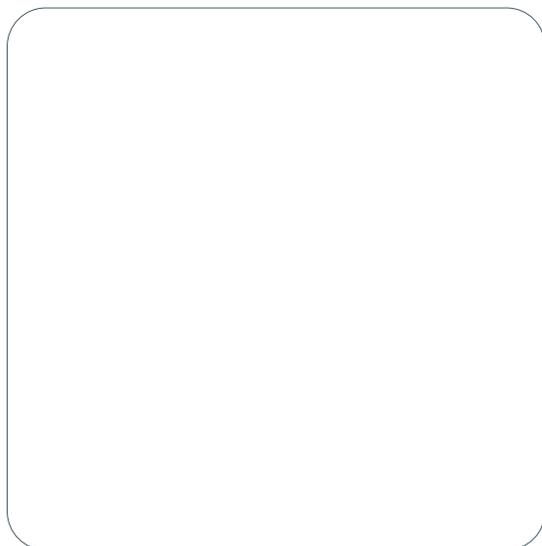


住 歌志内市字本町1027番地1
営 10:00～17:00
休 月曜日・年末年始
(12月30日～1月4日)
☎ 0125-43-2131



上砂川町 スタンプ
設置場所

上砂川岳温泉パンケの湯

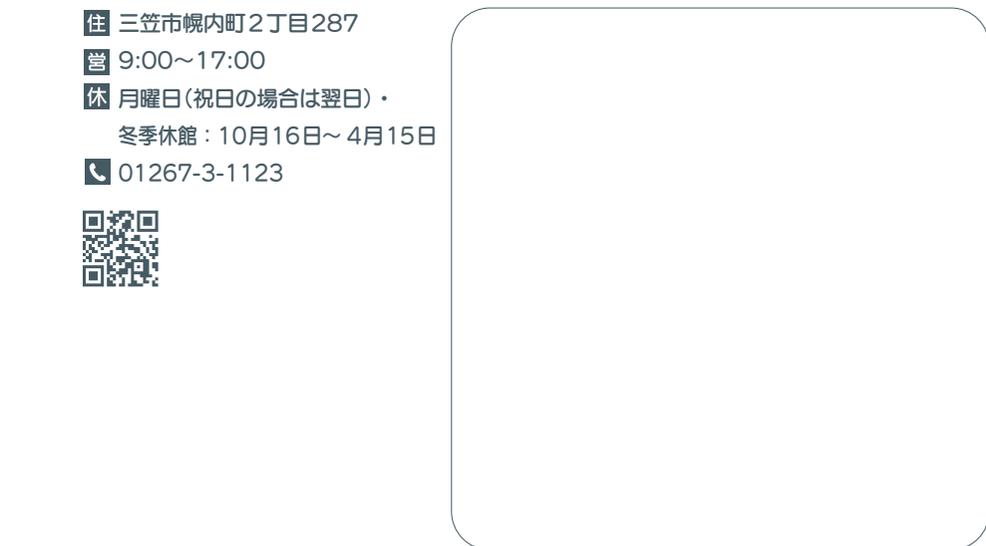


住 上砂川町字上砂川65番地
営 10:00～22:00
土日祝日 9:00～22:00
休 なし
☎ 0125-62-2526



三笠市 スタンプ
設置場所

三笠鉄道記念館



住 三笠市幌内町2丁目287
営 9:00～17:00
休 月曜日(祝日の場合は翌日)・
冬季休館：10月16日～4月15日
☎ 01267-3-1123



美唄市 | 三菱鉱業美唄鉄道

美唄鉄道東明駅舎 4110形式十輪連結タンク機関車2号



所在地：美唄市東明5条2丁目
お問合せ：美唄市教育委員会生涯学習課
電話番号：0126-62-3132

【美唄鉄道東明駅舎】

1948(昭和23)年に美唄鉄道の駅として設置されました。第二次世界大戦以前は農村地域でしたが、戦後に三井・三菱両炭鉱の住宅地になり、東明駅が設置されたのを契機にそれまでの「しのめ」から、一帯を「とうめい」と呼称するようになりました。1972(昭和47)年に鉄道が廃止された際、東明駅舎と鉄道関係資料が三菱鉱業から寄贈され、現在は駅舎の他に機関車、プラットホームが残されています。

【4110形式十輪連結タンク機関車2号】

1919(大正8)年に製造されたE型蒸気機関車で国鉄4110形と同形式。美唄鉄道が三菱造船(株)神戸造船所に発注したもので、三菱造船(後の三菱重工)の蒸気機関車第1号でした。1972(昭和47)年の美唄鉄道廃止まで使用された後に美唄市へ寄贈されました。

岩見沢市 | 万字線

朝日駅舎



1919(大正8)年に開駅。1985(昭和60)年、万字線廃止に伴い廃駅。開駅当時の駅舎が地元の方々の手によって綺麗に維持されています。

1974(昭和49)年に隣接の朝日炭鉱が開山し、1978(昭和53)年に無人駅に。駅構内は万字線鉄道公園として整備され、かつて小樽築港で構内入換機として活躍したB20形蒸気機関車が静態保存されています。現存するB20形は2両のみで、もう1両は京都の梅小路蒸気機関車館で動態保存されています。

所在地：岩見沢市朝日町176
お問合せ：岩見沢市建設部公園緑地環境課 公園緑地事業係
電話番号：0126-23-4111

岩見沢市 | 函館本線・室蘭線

岩見沢操車場跡



石炭輸送の中継地として発展した岩見沢。操車場は1922(大正11)年に建設が始まり、1926(大正15)年に完成。5線群からなり、操車能力は当初の1日平均1617両から、2回の改良工事を経て昭和30年代後半には1日2500両に増強され、東北以北最大の操車場と言われました。石炭輸送と電気機関車けん引列車の廃止により、1994(平成6)年、68年の歴史に幕を閉じました。

所在地：岩見沢市大和町1条1丁目～8丁目、同2条2丁目・3条3丁目・4条4丁目・4条7丁目 見学：遠望のみ
お問合せ：岩見沢市企画財政部企画室企画調整係 電話番号：0126-23-4111

沼田町 | 留萌鉄道炭礦線

クラウド15号蒸気機関車



所在地：沼田町字幌新377 ほろしん温泉ほたる館前 公開期間：5月上旬～10月末
お問合せ：沼田町教育委員会 電話番号：0164-35-2132

1889(明治22)年ドイツのクラウド社で製造された蒸気機関車。九州鉄道に輸入され、その後日本国有鉄道、東京横浜電鉄を経て、1931(昭和6)年に留萌鉄道に譲渡され、1967(昭和42)年まで明治鉱業昭和炭鉱で石炭貨車牽引などで活躍しました。現在日本に現存する最も古い小型蒸気機関車で、日本遺産「炭鉄港」の構成文化財。

芦別市 | 三井芦別鉄道

旧三井芦別鉄道 炭山川橋梁



所在地：芦別市西芦別町～中の丘町 お問合せ：芦別市総務部企画政策課移住定住推進係
電話番号：0124-27-7358

1945(昭和20)年12月に竣工した、芦別川支流の炭山川に架かる三井炭山(株)専用鉄道の橋梁。橋長94m、鋼製6連プレートガーダー桁橋とコンクリート造2連アーチからなり、線形は緩やかな曲線を描く。炭山川の深い渓谷に高さ30m、最大直径7mのコンクリート製橋脚5本が並び立っている。鉄橋上にはディーゼル機関車と石炭専用貨車が展示されています。



三笠市 | 幌内線

唐松駅舎



1929(昭和4)年に住友唐松炭鉱の石炭搬出物駅として開駅、新幌内砒出炭開始により貨物や駅勢圏住民が急増したことから、1941(昭和16)年と1957(昭和32)年に増築された。ギャングレル屋根(二面切妻の二段勾配屋根)で待合室部分と駅事務室部分の2棟が直交し組み合わせられた独特な形態が特徴的です。

所在地：三笠市唐松町1丁目
お問合せ：三笠ジオパーク推進協議会(商工観光課内)
電話番号：01267-2-3997

小樽市 | 官営幌内鉄道・旧国鉄手宮線
小樽市総合博物館 本館



所在地：小樽市手宮1丁目3-6
開館時間：9:30~17:00
休館日：火曜日(祝日の場合翌日)・
年末年始(12/29~1/3)
電話番号：0134-33-2523

旧国鉄手宮線の手宮駅の敷地を利用した施設で、北海道の鉄道発祥の地である官営幌内鉄道の起点となった場所です。敷地内には鉄道記念物が数多く展示されており、「北海道鉄道開通起点標」をはじめ、国の重要文化財にも指定され、日本遺産「炭鉄港」の構成文化財にも認定されている旧手宮機関庫、転車台などの鉄道施設と、官営幌内鉄道時代の1885(明治18)年に輸入された蒸気機関車「しづか号」、現存する最古の国産蒸気機関車である「大勝号」を始めとする歴史的な機関車や、石炭輸送に使用された機関車と石炭貨車など、多くの車両が保存・展示されています。博物館内には、官営幌内鉄道建設の様子や石炭積出港の歴史を伝える展示資料もあり、当時の様子を知ることができます。

小樽市 | 官営幌内鉄道・旧国鉄手宮線
旧国鉄手宮線跡地



所在地：小樽市色内1丁目周辺 アクセス：JR小樽駅から徒歩約15分 お問合せ：小樽市建設部公園緑地課
電話番号：0134-32-4111

手宮線は、石炭輸送を目的とした北海道最初の鉄道である官営幌内鉄道の一部として1880(明治13)年11月28日に開通しました。1985(昭和60)年に廃線となりましたが廃線後もレールは残されており、付属施設の一部は日本遺産「炭鉄港」の構成文化財に認定されています。現在は約1.6kmの区間が舗装されて散策路として整備されており、廃線跡のレールを使ったトロッコ乗車イベントなど、列車が走っていた頃の雰囲気を味わうことができます。

室蘭市 | 室蘭本線・室蘭支線
室蘭市旧室蘭駅舎



所在地：室蘭市海岸町1丁目5-1 開館時間：8:00~19:00(4月~10月) 8:00~17:00(11月~3月)
電話番号：0143-23-0102(室蘭観光協会)

空知産の石炭の多くは、積出港のある室蘭まで鉄道で運ばれました。石炭積出港として発展した室蘭の歴史に鉄道は欠かせない存在でした。旧駅舎は1912(明治45)年に建設された木造2階建ての北海道では最古の木造駅舎です。1997(平成9)年に駅としての役目を終えました。1999(平成11)年に「国の登録有形文化財」に登録され、2019(令和元)年には日本遺産「炭鉄港」の構成文化財に認定されています。館内には観光案内所、歴史を伝える写真パネル展示や休憩スペースがあり、無料で入館できます。隣接する公園には、長年石炭輸送で活躍した蒸気機関車D51 560が綺麗にメンテナンスされ、展示されています。

岩見沢市 | 官営幌内鉄道・幌内線
旧北海道炭礦鉄道岩見沢工場(岩見沢レールセンター)



所在地：岩見沢市有明町中央

1899(明治32)年頃、北海道炭礦鉄道の岩見沢製作所として造られました。1915(大正4)年に廃止になりましたが、現在もJR北海道のレールセンターとして使用されています。建物壁面の赤い星は北炭の社章です。岩見沢駅北口からも見ることができます。
※敷地内は企業敷地のため立入禁止。
内部非公開・外観のみ見学可。

安平町 | 室蘭本線
道の駅 あびらD51ステーション 鉄道資料館



所在地：安平町追分柏が丘49-1
営業時間：9:00~18:00(4月~9月) / 9:00~17:00(10月~3月)
鉄道資料館：11月~3月の冬期間は休館(臨時開館日を除く)
電話番号：0145-29-7751 車輛公開等に関するお問合せ：0145-29-7036(平日9:00~17:00)

夕張線と室蘭本線の合流点にある、追分(現・安平町)には夕張からの石炭輸送を担った追分機関区がありました。国鉄が公式に認定した「鉄道の町」は道内では岩見沢機関区のある岩見沢と追分の2箇所でした。道の駅に併設されている鉄道資料館には、1975(昭和50)年まで石炭輸送に使われたD51 320号機が元機関士たちによる入念な手により国内でも屈指の良好な状態で保存されており、日本遺産「炭鉄港」の構成文化財に認定されています。SL公開イベント時には屋外に出され、動く姿を見られます。資料パネルや当時の写真パネルなども展示されています。敷地内のディーゼル特急車両キハ183公開イベントや、鉄道イベント、ミニSL運行などが年に数度開催されるので、ホームページなどでご確認ください。

小樽市 | 旧国鉄手宮線・函館本線
小樽中央市場



所在地：小樽市福穂3丁目11-2 お問合せ：小樽中央市場協同組合 電話番号：0134-22-5384

1956(昭和31)年に建てられた小樽中央市場第3棟。1階は店舗、2~3階は住居で水洗トイレを備え、建設当時としては近代的な造りでした。小樽中央市場は、戦後まもなく中国東北部からの引揚者により創設されました。ここや小樽市内のほかの市場で仕入れた食料品や日用雑貨をブリキ缶に入れ、風呂敷で背負った行商人、通称「ガンガン部隊」が鉄道を使って空知の産炭地へ向かっていました。ガンガン部隊の全盛期には、国鉄は一般客とのトラブルを避けるため、専用車両「行商指定車」を設けたほどでした。